

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！



あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第64号 2012年11月1日発行

2012
11
月号

やまと
さんぽ



「センター」のシンボルツリーはイチョウ。目の前にデンと構え、四季を表している。県立大和高等学校脇の道路等市内随所にみられる。



●大和市スケッチ NOW・3回シリーズ(その2) 郷土民家園・旧小川家主屋 絵・柴田 豊(大和市職員)

泉の森公園の一面にある郷土民家園には、江戸時代中期に上和田地区の公田集落に建てられ、市内に現存する中では最古の家屋である旧小川家主屋と、江戸時代末期に下鶴間地区の公所集落に建てられた、養蚕農家の旧北島

家主屋という、二棟の古民家が移築復元されています。もちろん、この古民家には既に「生活」はありませんが、じっと眺めると自然と折り合い、共生していた当時の人たちの息遣いが伝わってきます。

カッコーフェスタ'12

(第7回市民活動団体交流まつり)

11月3日(土)・4日(日) 10:00~16:00

<送付の際、同封のご案内>・ボランティア見学会・11/29(木)のお知らせ

誘いあって
来てね。



「カッコーフェスタ」のキャラクター
カッコちゃん

*「あの手この手」は大和市民活動センターのHPではカラーでご覧になれます。

市民活動団体の活動の姿を見に来てください。

第7回市民活動団体交流まつり カッコーフェスタ'12

「カッコーフェスタ」のキャラクター
カッコちゃん



準備の様子…

開催に向けフェスタ盛り上げ隊の準備打合せは10月に4回行われました。

文字通り「お祭りを盛り上げ」ようと企画するのですが、実態は「こうしたら?」「だれが作るの?」「去年は雨でインクが流れた」など茶話会の雰囲気です。

「カッコーフェスタの命名」「カッコちゃんのイラスト」そして、賑やかな「のれん状の文字看板」など多くのアイデアは、この打合せから生まれました。参加23団体の応募や自分達の活動を知ってもらおうと延50名以上の人からの企画意見が有効に生かされ、準備も例年より早くまとまりました。

大和商工会議所主催の「やまと産業フェア」の開催に合わせ、11月に実施。今回で7回目。

参加団体数は今回24。大和市には市民活動団体がたくさんあり、更に参加を期待したいところです。

このフェスタは大和で活躍する「センター」の登録団体が工夫を凝らして盛り上げています。

当日の様様

今回の内容は団体の活動紹介をする展示・実演デモ、バルーンアート・おりがみ・お花・皿回しなどの体験、そして活動団体から提供の有機栽培野菜や東日本大震災の被災地、東松島市のノリなどの販売もあります。

引地川水とみどりの会の子ども達は“引地川リサイクル大作戦”というタイトルでゲームをします。

人気のスタンプラリーも行います。会場を一巡、指定個所でスタンプを押し、終えて、くじを引いた人、みんなにプレゼントします。

[拠点やまと]は、バザーを行い、売上金を市民活動推進資金へ寄附します。



当日のフェスタの様子は「センター」ホームページにアップロードされます。写真や記事でも「カッコーフェスタ!12」を楽しんでください。

<http://www.kyodounokyoten.com/>



心にヒットするフェスタにしたい

なかなか団体の活動現場には伺うことはできませんが、フェスタも7回を数えると、販売のコーヒーをご馳走になったり、手作り品をいただいたり、お馴染さんとは「お久しぶりです」と話はずみずみです。参加団体からもお隣さんとお互いの活動を紹介し合ったり、交流が生まれたと喜ばれてもいます。

産業フェアの人出に便乗しているので、来場者は市民活動に無縁な人が多いのですが、少しでも心にヒットするフェスタにしたいと思っています。

(拠点やまと会長 関根孝子)

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例

第9条(協働の拠点)

市民等、事業者及び市は協働の原則に基づき、それぞれの役割分担に応じて、社会資源の充実を図るための協働の拠点を設置し、その充実に努める。

2、協働の拠点は、原則として市民等がその運営を担う。

※今期は[拠点やまと]が担っています。

はじめよう、ボランティアコーディネーターへの道

平成24年度「ボランティアコーディネーター養成講座」に参加しました。

「ボランティアコーディネーター」という言葉をご存知ですか？

「ボランティアコーディネーター」は、ボランティア活動に興味を持ってもらい、活動の正しい理解を促進し、きっかけを提供するなど、市民参加を支援するプロを指します。私たち大和市民活動センター[拠点やまと]スタッフたちも、そういった意味では「ボランティアコーディネーター」の一員です。

大和市社会福祉協議会「やまとボランティアセンター」が主催し、大和市民活動センターなどが共催して、10月中旬に5回にわたり「ボランティアコーディネーター養成講座」(会場:大和市保健福祉センター)が開かれました。

ボランティア活動の正しい理解と導きが肝心

10/9(火)「ボランティア活動とそのコーディネート」

東日本大震災を機に社会全体でボランティアに対する関心が高まる中、「ボランティアをしたい」という思いを継続できるボランティア活動につなげるためには？

ボランティアコーディネーターの必要性を感じるため、まずはボランティアに参加する際の心得について話がありました。

自主性、無償性、社会性、創造性、継続性といったボランティア原則論にとらわれるだけでなく、活動していく過程で実感していくことが大事です。



こんなコーディネートしてみたい！

第3回目以降は、さまざまなテーマにおけるボランティアのコーディネートについて、具体的な事例を交えながら話し合いました。

- 10/25(木) 福祉施設におけるボランティア活動
- 10/27(土) 災害ボランティア活動
- 10/29(月) 地区社協個別生活支援活動

- 「センター」は、ボランティアをコーディネートする役割を担っており、学んだことをスタッフのスキルアップにつなげるとともに、登録団体への普及に努めます。
- 11月29日(木)市民活動課主催の「ボランティア見学会」が開催され、「センター」も共催します。ボランティアコーディネートの一環であり、見学会に参加するボランティア募集团体ともども実践してまいります。

活動前の準備と継続的フォローが大切

10/16(火)「ボランティア活動のリスクマネジメント」

ボランティア活動を受け入れるとき、もしくはボランティア活動に関るとき、必ず良い思いだけではありません。「継続するボランティア」につなぐためには、さまざまな「リスク」を直視しなければなりません。

事故や個人情報の漏れ、モチベーションや活動の管理などさまざまな課題があります。

ボランティア活動に関する情報をきちんと記録・管理することで、「リスクに気づく」ことができ、適切な対策を講じることでリスクを未然に抑えることが重要だと考えられます。

連続共育セミナー

次回の第56回連続共育セミナーは、

テーマ:会議上手になろう！

～会議進行役(ファシリテーター)がポイント～

日時: 12月18日(火)19時～21時(18時30分開場)

会場: 大和市渋谷学習センター 310講習室

(小田急江の島線 高座渋谷駅 徒歩1分)

講師: 青木将幸さん(青木将幸ファシリテーター事務所)

定員: 18名(先着順)、12月14日(金)まで要申込み

参加費: 500円(資料代として)

「センター」の  ある日ある時

10月31日(水) 曇り

例年のごとく、「センター」正面の駐車場横の柿の木に実がなっている。上の方の熟した様に見える実はすでに目ざとい野鳥についばまれている。熟すのを待っていたら、鳥に先を越されそう。背の届く範囲にも熟しかけているのがチラホラ。カッコーフェスタ終了後に見て、採り始めよう。



大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する
月刊広報紙「あの手 この手」。

2012年11月号(第64号)をお届けします。

その手づくりの木板の看板に、こんな文言がマジックインクでしっかりと書かれていました。
「ビオトープ池 野鳥の森に、もっともっと 動物や植物が増えることを夢みて 池を掘っています。
トコロジストの会 野鳥を守る会」

この看板のある場所は大和市内南部の緑地「上和田野鳥の森」。

先週の27日(土)、大和市トコロジスト養成講座第4期生の講座最終の4回目として、市内にある緑地5箇所を一日でめぐる見学ツアーがありました。見学1箇所目の緑地は大和市北端にある「つるま自然の森」。この緑地は私もつるまの森保全協会のメンバーのひとりとして17年ほど保全してきているので、この日、「つるま自然の森」の説明と見学案内をふたりで担当し、いっしょに他の緑地の見学も同行させてもらいました。その4番目に見学した緑地が上記した「上和田野鳥の森」です。

大和市では8つの緑地を保全緑地として指定し、土地所有者(=地主さん)と契約を結び、保全を続けてきています。「つるま自然の森」もこの「上和田野鳥の森」も、市が契約を結び、その緑地周辺の市民が中心となって、ボランティアで日常的に手入れを続けている緑地です。

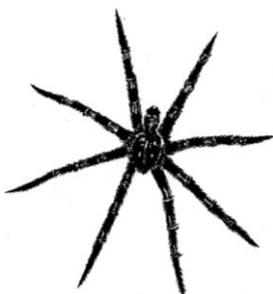
さて、

ここに「トコロジスト制度」を組み込むことは、もっと緑地のもつ魅力を見出し、そこにある緑地を身近に感じることができる手法であり、仕組みなのではないかと、大和市トコロジスト養成講座1期目の講座の受講を終了した私は感じています。

市ができること、市民ができること。お互いの持ち場、得意技を尊重しあって、私たちのまちを健やかに過ごせる地域社会にしていく。この関係って、「新しい公共」を担うひとつのカタチのように思うのですが。

記・小杉皓男[拠点やまと]広報係 2012/10/31

*トコロジスト トコロ(=場所)、ジスト(=専門家)のふたつの言葉を合わせて「その場所の専門家」という意味の造語。故・浜口哲一(はまぐち てついち)さん(元平塚市博物館館長・神奈川大学特任教授)が提唱したもの。「ひとつの場所の自然を継続して見る」ことを価値ありとするライフスタイルの提案でもある。



「上和田野鳥の森」の観察会で「トコロジスト」の弘中健一さんが発見したクモ。
〈キクメハシリグモ〉 神奈川県内で初めて生存が確認。
水に潜り、水面をアメンボのように移動できる。
脚を広げると10cm程ある。

イラスト:望月則男